

九州「農地・水・環境保全」 フォーラム in 宮崎

～農地・水・環境保全で
魅力ある地域づくりをめざして～

日時 平成23年 **10月26日** 水

開始 13:00～ 受付 12:00～

会場 **メデイキット県民文化センター**

(宮崎県立芸術劇場)

主催 ふるさと環境フォーラム・九州連絡会
(事務局:宮崎県農地・水・環境保全向上活動推進協議会)

後援 九州農政局・宮崎県

九州「農地・水・環境保全」フォーラムin宮崎

～農地・水・環境保全で魅力ある地域づくりをめざして～

【開催主旨】

九州管内では、3,961にも及ぶ「農地・水・保全管理支払交付金」の活動組織により、農業及び農村の基盤となる農地や水の保全と質的向上や農村環境の向上など、地域コミュニティの構築を図りながら、多彩な活動が展開されている。

そこで、九州管内における活動組織の事例発表や意見交換により、さらなる意識高揚と情報の共有化や交流を図り、広く一般に情報発信することで、農村資源の大切さと保全への理解促進を図ることを目的として、当フォーラムを開催する。

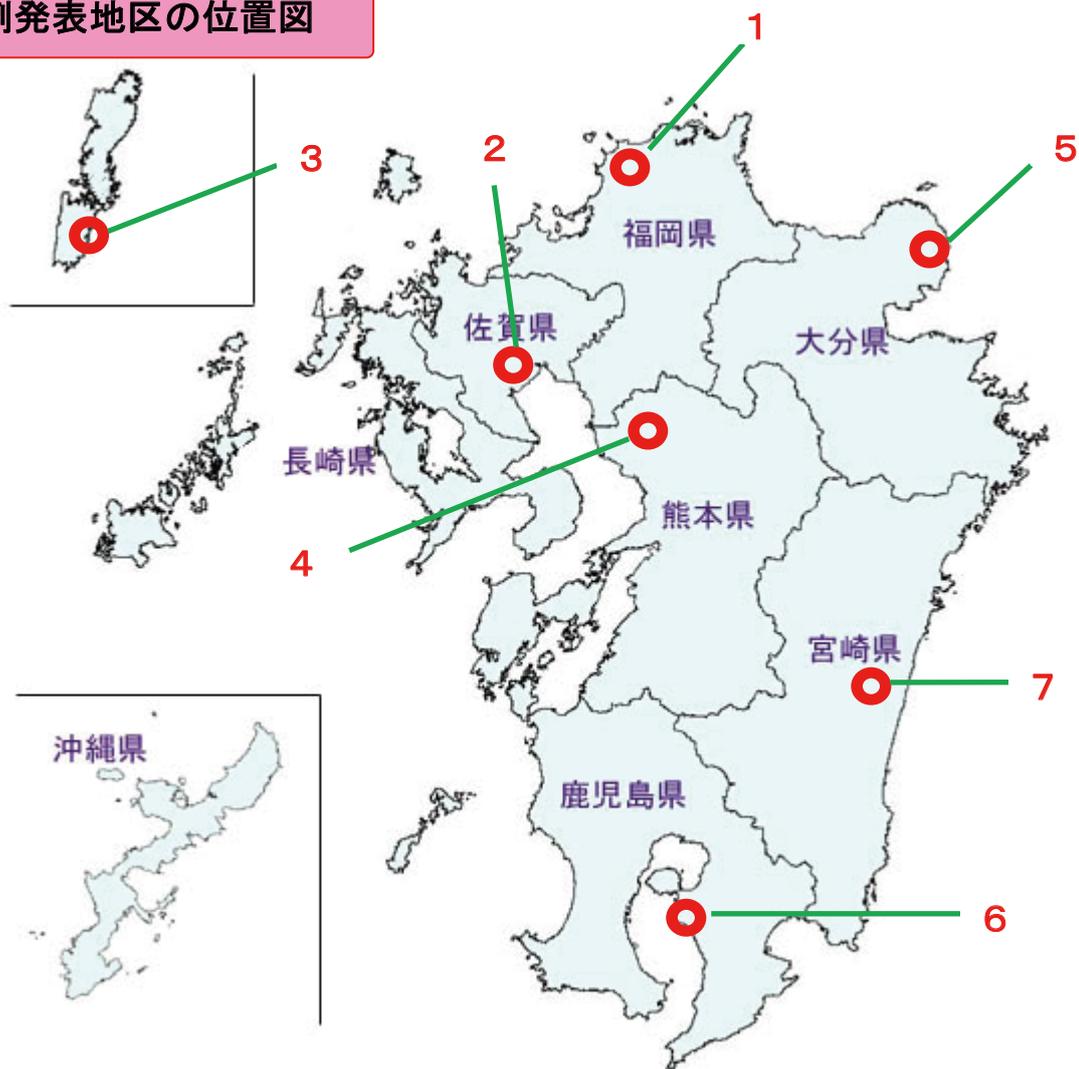
【次 第】

1. 開 会 宮崎県農地・水・環境保全推進協議会副会長
山之上 浩（宮崎市農村整備課長）
2. 主催者挨拶 ふるさと環境フォーラム・九州連絡会会長
宮崎県農地・水・環境保全推進協議会会長
黒 岩 一 夫（水土里ネット宮崎常務理事）
3. 来賓挨拶 九州農政局次長 丸 山 和 彦
宮崎県農政水産部次長 押 川 延 夫
4. 基調講演 「逆転のむらづくり」
夕日の里づくり推進会議代表 後 藤 福 光
5. 事例発表 九州各県 7団体
6. パネルディスカッション
コーディネーター 井 上 優（宮崎県NPO活動支援センター長）
パネラー 丸 山 和 彦（九州農政局次長）
川 口 道 子（（有）鉦脈社専務取締役）
北 川 義 男（南九州大学元環境造園学部教授）
菅 田 正 博（西長江浦下区むらづくり協議会事務局次長）
7. 閉 会 鹿児島県水土里サークル活動支援協議会 有 馬 重 徳

【事例発表団体一覧】（発表順）

NO	県名	市町村名	活動組織名
1	福岡県	宗像市	なごり 名残みどりの会
2	佐賀県	杵島郡白石町	かわづ 川津資源保全隊
3	長崎県	対馬市	さご 佐護地区資源保全活動隊
4	熊本県	山鹿市	いけだ 池田地域活動組織
5	大分県	国東市	よしき 吉木地域環境保全組合
6	鹿児島県	垂水市	ほんじょう 本城地区資源環境保全会
7	宮崎県	川南町	エーエーエーの エコAAA野田

事例発表地区の位置図



1. 基調講演者のご紹介

後藤福光（宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町在住）

かみぐみ
○上組夕日の里づくり保存会構成員（農地・水保全管理支払交付金）
*活動組織資料は次頁参照

○夕日の里づくり推進会議代表

平成14年度 食アメニティコンテスト農林水産大臣賞（優秀賞）

平成15年度 第8回宮崎県地域づくり顕彰奨励賞

平成18年度 地域づくり総務大臣表彰（地域振興部門）

平成22年度 地域活性化に取り組む農山漁村を対象に農林水産省が全国に公募した「食と地域の『絆』づくり」の優良事例に選定

2. パネルディスカッション参加者のご紹介

◆コーディネーター

井上 優（宮崎県NPO活動支援センター センター長）

《プロフィール》

昭和57年 東海大学文学部史学科 日本史専攻過程卒業後、民間企業にて商品開発・企画を担当、JRの磁気キップ等ITサプライ関係の製品化・実用化を市場に先駆けて行う。

《主な活動実績》（抜粋）

自治体職員研修、公益活動団体等研修・講演、自治体各種審議員（宮崎県、農林水産省他）、各種行政計画等委員、フォーラム等での講演・パネリスト・コーディネート活動 他

◆パネリスト（掲載順不同）

丸山 和彦（九州農政局次長）

川口 道子（（有）鉦脈者専務取締役）

情報誌「タウンみやざき」を発刊。マスコミ、また、女性の立場として「宮崎県水土里のふるさとづくり懇話会委員」や「21創造運動大賞地方選考委員」などの委員を多数歴任。

北川 義男（南九州大学 元環境造園学部教授）

大阪府立大学農学部卒業後、外務省のプロジェクトによりシンガポールで緑地計画に携わるなどの仕事を経て、昭和52年から南九州大学で環境デザイン論、都市公園論などの講義を担当。日本造園修景協会宮崎支部長をはじめ、宮崎県各種審議委員会委員などを多数歴任。

菅田 正博（西長江浦下区むらづくり協議会事務局次長）

えびの市役所では、基盤整備対策室長、畜産農林課長、農業委員会事務局長を歴任。退職後は、（有）ながえむら生産組合常務取締役に就任。農地・水保全管理支払交付金の活動組織でも事務次長を務め、「担い手の育成」と「ホテルの飛び交うむらづくり」を目指す。

【参考】

五ヶ瀬町「上組夕日の里づくり保全会」の概要(後藤福光氏 所属の活動組織)

1 採択年度	21年度	2 活動組織名	上組夕日の里づくり保全会				
3 キャッチフレーズ	「守りたい、ふる里の景色。そして、子供たちへ！」						
4 市町村名	五ヶ瀬町	5 集落名	上組集落				
6 営農活動		7 関係土地改良区					
8 対象農用地			9 農業用施設				
田	畑	草地	計	開水路	パイプライン	ため池	農道
3.4 ha	27.7 ha		31.2 ha	1,100 m			3,300 m
10 構成員内訳			11 主な活動状況				
農業者	50人		1) 基礎活動				
農業者以外の構成員			○開水路の草刈り・泥あげ、農道の草刈り・農地畔の草刈り				
上組小学校PTA			2) 農地・水向上活動				
五ヶ瀬町消防団第4分団1部			○開水路の点検、目地補修等				
第6区公民館			3) 農村環境向上活動				
第6区婦人会			テーマ: 観形成のため植栽等				
農業者			○小学校と連携し昨年は山桜の植栽、今年は菜の花の種を蒔きました。子供達に農地の大事さを教える良い機会となりました。				

13 特長ある活動状況写真

12 活動組織の将来像

守りたい、ふる里の景色。 宮崎県五ヶ瀬町上組地区

上組夕日の里づくり保全会 **そして、子供たちへ**

上組地区は標高600mの高地でお茶や野菜を中心とした畑作農地が広がっています。地区からは大阿蘇を展望でき、茶園とのロケーション、夕日の美しさは風情を感じます。そんな上組地区をいつまでも美しく元気な山里であるため、子供達にこの自然を残していくため、地域一体となって農地・水・環境を守っていきます。

私たちは、ふる里の農地や農業用施設の保全管理を行うとともに、ふる里の景色・自然環境をみんなの力で守る共同作業に取り組んでいます。

農地・水・環境向上対策

当地域には、小学校や保育所の公共施設、ワイナリーや特産品販売所、また標高600mの高台にある農地からは大阿蘇を一望でき地域づくりの資源があります。最近では県道の2車線開通により大型バスも見かけるようになり町内外は基より県外からの来客も増え活気をおびている。

しかしながら当地域でも過疎化・高齢化は進んでおり、後継者不足も深刻な問題です。この活動をとおり、地域一体となって農地や施設を守り耕作放棄地の防止、新たな活動の担い手を育成します。また子供達との活動によって農地の大事さ、自然環境の大事さを教え、ふるさと風景を守っていきます。将来イターンやUターンなど、この地域で安心して生活できる地域にしたいです。

ふりがな 地区名 / キャッチフレーズ <small>むなかたしなごりちく</small> 福岡県宗像市名残地区 / 住民と共生する環境保全型農業を目指して		
活動組織の名称 ※ふりがなを忘れずに！	<small>なごりかい</small> 名残みどりの会	
所在地	福岡県宗像市名残	
地域の状況 ・地区の位置 ・資源保全に係る過去と現在の違い ・地域資源と住民との関わりなど	名残集落は、里山の麓の谷に広がる農村で、稲、麦、大豆を中心とした農業が展開されている。しかし政令指定都市（福岡市、北九州市）に近く、周辺を大型住宅団地に囲まれるようになってきた。そこで周辺住民と共生する農業を目指し、「水源を守る、住民の生活用水である河川を汚さない、安全な作物を生産する」をモットーとして、化学肥料削減に努めてきた。 取組当初は集落内農家の抵抗や不安も大きかったが、リーダーを中心に活動を重ねていくうち、環境保全型農業の必要性を集落全員が認識するようになった。同時に周辺住民に呼びかけ、生き物調査や彼岸花植栽等の交流を始めることとなった。	
活動や取組の内容 ・地区の目指す方向 ・活動の概要	・平成19年に集落内全農家がエコファーマーを取得、21年には全水田で福岡県減農薬減化学肥料栽培認証を取得。また、定期的に新しい技術の実証や新しい活動の実践を行っている。 ・農業用施設の管理や景観作物の植栽等を農家と共に集落住民が共同で参加することで、農村環境、住環境が向上し、みんなが暮らしやすい空間作りにつながっている。	
成果・課題 ・成果 ・今後の課題など	・地区内河川のホタルや田んぼの生き物の種類や数も増加するなど、環境が目に見えて向上している。 ・消費者との交流等を通じ、農家が自信と誇りをもって活動に取り組むことができ、その結果食育や米の販売促進につながってきた。 ・高齢化が進む中、今の活動を継続していくことが課題である。	
キーワード（5つ以内）	・環境保全型農業・地域ぐるみ・景観形成・食農教育・地産地消	
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	①水質保全 / ②生き物調査（希少生物の保護など） / ③景観形成（ゴミ拾い、花植など） / ④ビオトープ / ⑤畑・樹園地に関すること / ⑥営農活動に関すること / ⑥特にユニークな活動 / ⑦その他（ ）	
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	①周辺を大型住宅団地に囲まれており、住民と共生する農業を目指すため、全農家がエコファーマーとなり、全面積で減農薬・減化学肥料栽培を実施している。 ②平成17年度に福岡県「農の恵み」モデル事業に取組み、農家だけにとどまらず、周辺の住民まで巻き込んで、生き物調査、水路整備、彼岸花植栽、交流会等の活動を行っている。 ③地域の保育園との連携による食農教育や、地区内市民農園利用者との交流会として清掃活動等を実施している。 ④普及指導員を講師として定期的に勉強会を開催し、常に新たな技術の実証・普及に努めている。 ⑤第15回環境保全型農業推進コンクールにおいて、農林水産大臣賞を受賞。都市化が進む宗像市全体のモデル的な役割を果たしている。	
発表者（いずれかに○印）	○農家のみ、農家と非農家、非農家のみ	
応募者	<small>ふりがな</small> 応募者名	瀧口 玉代 発表者数： 1名 (内小・中学生 名)
	連絡先	住 所：福岡県宗像市名残 1 3 5 3
		T E L：0940-35-2412, 090-5293-1563
		F A X：0940-35-2412
	E-mail：	

名残みどりの会～住民と共生する環境保全型農業を目指して～

なごり

むなかたし
名残みどりの会 (福岡県宗像市)

(問い合わせ先)

TEL 0940-35-2412

<http://www.f-ninsyou.net>

(認証番号: 0910913)

(経歴)

住民と共生する環境保全型農業を目指して、集落全55戸(うち農業者12戸)で「名残みどりの会」を平成19年に設立。

水田42.5haで米、麦、大豆を中心に栽培。

集落全農業者で、エコファーマー及び水稲作付ナのはほぼ全面積で福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証(化学農薬、化学肥料とも5割以下)を取得。



○ 経営面の取組

①農家12戸の内、認定農業者4名で栽培面積の67%をカバーし、環境保全型農業に取り組んだことによる大幅な収量・所得の減少はなく、安定的・継続的な経営を展開。



②これまで米の販売は各農家ごとに消費者や保育園への直接販売、JA出荷などを行っていたが、プライベートブランド「名残米」として、近隣のスーパーなどで販売を開始。今後さらに販路を拡大していく。

○ 取組の成果

①環境保全型農業の取組により、ホタルや田んぼの生き物の種類や数が増加するなど、環境が目に見えて向上。

②消費者との交流する機会が増加し、米の販売促進や環境保全型農業の理解促進につながった。

③取組み当初は不安を抱えていた農家が、活動を通じて生き物が増えたことや消費者の喜ぶ顔が見えたことで、自信と誇りを持って、積極的に取組むようになった。

④これらの活動が評価され、第15回環境保全型農業推進コンクールにおいて大賞(農林水産大臣賞)受賞!!

○ 生産面の取組

都市近郊農業地帯として「水源を守る、住民の生活用水である河川を汚さない」「安全な作物を生産する」をモットーとして集落全体で環境保全型農業に取り組んでいる。

①土づくり・減化学肥料の実践

・稲わら、粉殻、米ぬか、麦わら、大豆がらの土壌すきこみ

・自家製堆肥の施用

・土壌分析結果に基づく施肥、鶏糞、有機質肥料の使用

②減化学合成農薬の実践

・田んぼの生き物調査を実施し、その調査結果を踏まえ、防除回数削減

・生き物(クミンゴカイ、カブト虫等)を活用した除草

・畦草刈やカラムシ忌避を目的としたハーブの植栽

・本田の機械除草、温湯消毒の実施、種子の薄まき、疎植、減肥による健全な稲づくり



○ 地域社会への貢献

①保育園の園児を田んぼに招き、田植え、田んぼの生き物探し等を体験してもらうことで、農業・食育・環境保全の理解を深めてもらう活動を行っている。



②ホタル祭りや周辺住民との交流会、市民農園参加者との交流会を行い、地区のPRや環境保全型農業の取組みを紹介し、理解促進に努めている。

③会では、地区全体のため池、水路、農道の保全管理に取り組み、景観向上のため、消費者との清掃活動や彼岸花の植栽を実施。

ちくめい 地区名 / キャッチフレーズ かわづ ちく みず いのち みなもと 川津地区 / 水は命の源			
活動組織の名称 ※ふりがなを忘れずに！ かわづ しげん ほぜん たい 川津資源保全隊			
所在地 佐賀県杵島郡白石町川津地内			
地域の状況 ・ 地区の位置 ・ 資源保全に係る過去と現在の違い ・ 地域資源と住民との関わりなど	川津地区は、白石町の西部に位置し、杵島山の麓に広がる集落内では、水稲をはじめ、大豆及び特別栽培で取り組んでいる「七タコシヒカリ」、タマネギ・キャベツ・レタスなどの露地野菜、アスパラガス・小ネギなどの施設園芸などがおこなわれており、極めて高い耕地利用率となっている。 白石町は従来から、水源に乏しい地形であったため、昭和30年代から農業用水についても地下水（深井戸）に依存してきた。こうした地下水の汲み上げにより、白石町では地盤沈下が深刻な問題となり、当地区内にある約800年以上もの歴史を持つ「縫ノ池」の湧水も止まってしまった。 こうしたなか、農業用水の地下水くみ上げを極力抑制したことや上水道の水源を地表水に切り替えたことなどの要因により、平成13年に約40年ぶりに湧き水が甦るに至った。このことを契機に、当地区では「縫ノ池湧水会」を設立し、地区内の環境美化活動や近隣都市住民を含めた交流活動をおこなってきた。		
活動や取組の内容 ・ 地区の目指す方向 ・ 活動の概要	・ 「湧き水を大切に守ろう」を合言葉として始まった縫ノ池の湧水を守る取り組みは、川津資源保全隊の設立を契機に、地区内全体の環境保全活動へ広がっている。 ・ 年2回の地区内全域の環境保全活動、農業用排水路の泥土上げ及び生き物調査、農道端への花の植栽、縫ノ池を約1,000個のキャンドルで照らし水環境を考えるイベント「キャンドルナイト」の開催、夏休み子供釣り大会、湧き水を用いたお茶会などの交流活動をおこなっている。		
成果・課題 ・ 成果 ・ 今後の課題など	・ 農業用排水路の泥土上げはバケツリレーでおこなっており、地区内の20～70才代の幅広い年齢層が参加し、世代間交流の場ともなっている。 ・ 子供たちも参加できる活動を続けていくことで、子供たちに自然環境・環境保全や人とのつながりなどを伝えていきたい。 ・ 今後は、他地区との交流を図り、更なる環境保全の取り組みを模索していきたい。		
キーワード（5つ以内）	・ 地域ぐるみ・世代間交流・人づくり・近隣都市住民との交流		
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	①水質保全 / ②生き物調査（希少生物の保護など） / ③景観形成（ゴミ拾い、花植など） / ④ビオトープ / ⑤畑・樹園地に関すること / ⑥営農活動に関すること / ⑥特にユニークな活動 / ⑦その他（ ）		
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	①約40年ぶりに甦った縫ノ池の湧水を大切に守っていこうという思いから始まった様々な活動を川津地区全体の環境保全活動へ拡大しておこなっている。 ②大人から子供まで様々な年代の方が参加できる活動をおこない、広く環境保全の大切さを感じてもらおうとともに、様々な年代の方がともに活動することで世代間交流の機会ともなっている。 ③地区の憩いの場である縫ノ池を中心として、水質保全、生態系保全、景観形成への一体的な取り組みをおこなっている。		
発表者（いずれかに○印）	農家のみ ○ 農家と非農家、非農家のみ		
応募者	ふりがな 応募者名	くりやま かずひさ 栗山 和久	発表者数： 6名 （内小・中学生0名）
	連絡先	住所 ： 杵島郡白石町大字福田1247番地1	
		TEL ： 0952-84-7122	
		FAX ：	
E-mail ：			

湧水の復活がつかないだすばらしい絆

～川津資源保全隊(縫ノ池湧水会)～

佐賀県白石町



湧水の枯渇に伴って水の無い池となった縫ノ池



池の底はひび割れていました

以前は豊富な湧水で美しい姿だった縫ノ池ですが、昭和30年代から農業用水や飲料水として地下水を過剰に汲み上げていたことで湧き水が止まり、水の無い池になってしまいました。

「農業用排水路の造成による農業用水の確保」や
「地下水を使用していた上水道の水源を地表水へ切り替える」などの結果……

約40年ぶりに縫ノ池の湧水が復活しました



現在の縫ノ池



縫ノ池の清掃活動



縫ノ池での魚釣り大会



子供達による魚の放流



キャンドルナイト

甦った湧水を守る活動が生まれ、
その活動は川津地区全体に広がっていきました



農業用排水路の泥土上げ



特別栽培米の穂が光る川津集落



湧水を用いたお茶会(野点)



農道側の植栽



美しい景観づくり(蕎麦の花)



女性部会による農道の清掃



農業用排水路の水草除去

ふりがな 地区名 / キャッチフレーズ さごちく / みんなでまもろう！ぜつめつ きぐしゅ のうか た 佐護地区 / みんなでまもろう！絶滅 危惧種。農家も田んぼもヤマネコも・・・	
活動組織の名称 ※ふりがなを忘れずに！	さごちく しげん ほぜん かつどうたい 佐護地区資源保全活動隊
所在地	長崎県対馬市上県町佐護地内
地域の状況 ・地区の位置 ・資源保全に係る過去と現在の違い ・地域資源と住民との関わりなど	対馬は、九州本土と朝鮮半島の間に浮かぶ南北82km、東西18kmの細長い島です。福岡までの距離が138kmに対して、韓国釜山までは49.5kmと近く、晴れた日には韓国の山々や建物を望むことができます。 佐護地区は、対馬市の北西部に位置し、地区の中心を対馬最大の佐護川が流れ、その周辺には田畑が広がり、昔からその豊富な水量を利用した水稲栽培が盛んに行われてきました。しかし、近年は、過疎・高齢化に伴い農家戸数が減少し、農業の存続自体危機的状況となっています。そのため、農道や用排水路の適正な維持管理が困難となり、その結果として遊休農地や悪臭の発生といった生活環境の悪化が顕在化してきた。
活動や取組の内容 ・地区の目指す方向 ・活動の概要	・地元の小学生に年間を通して米作りについて学んでもらうことで、将来の佐護地区を担う子供達に少しでも農業に関心を持ってもらうとともに、食の大切さや、自然環境において水田が果たす役割の大きさを知ってもらう。 ・水田は、国の天然記念物であるツシマヤマネコ（絶滅危惧ⅠA類）の生息環境において非常に大切な役割を果たしていることから、農家が水稲栽培を続けること自体が保護活動に繋がっているという自覚を持つとともに、減農薬栽培等の自然環境に配慮した栽培に取り組む。
成果・課題 ・成果 ・今後の課題など	・子供達の米作りに対する関心が高まり、水管理を当番制で行うようになったり、グループ毎に研究テーマを決め地域住民を呼んでの研究発表会や、採れたお米での試食会等も行われるようになり、子供達を中心とした地域間交流が行われるようになった。 ・ツシマヤマネコ等の自然環境に配慮した栽培に取り組む団体が設立され今年は協定面積の約1/3で、国の特別栽培米基準での水稲栽培が行われるようになり、ツシマヤマネコの見撃情報が増えた。しかし、減農薬栽培の取り組みが一部の農家のみで行われており、この取り組みを地区全体に広げていくことが今後の課題である。
キーワード（5つ以内）	・田んぼの楽校・ツシマヤマネコとの共生・異業種(団体)連携・伝統行事の復活
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	①水質保全 / ②生き物調査（希少生物の保護など） / ③景観形成（ゴミ拾い、花植など） / ④ジオトープ / ⑤畑・樹園地に関する事 / ⑥営農活動に関する事 / ⑥特にユニークな活動 / ⑦その他（学校教育との連携）
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	※①～⑤の番号を示して具体的内容を記入してください(該当する場合)。 ①国の天然記念物ツシマヤマネコの生息数が最も多い当地区では、農家、地元小学校、対馬野生生物保護センター等の関係機関が一堂となり、生きもの調査や、各種勉強会を開催し、ツシマヤマネコの生息環境の維持・改善に努めている。 ③生態系保全活動においては、対馬野生生物保護センターやコンサルト等の専門家にも参加して頂くことで、より質の高い活動が行われている。 ⑤本事業によって地域住民の繋がりが増し、地元祭りへの参加者が増加したり、森林化した対馬で唯一全山草原で覆われた千俵蒔山を、40年ぶりに野焼きする等新たな取り組みも行われるようになった。
発表者（いずれかに○印）	農家のみ、 農家と非農家 、非農家のみ
応募者 ふりがな 応募者名 連絡先	須川直人 発表者数： 名 (内小・中学生 名)
	住 所：長崎県対馬市上県町佐須奈甲567-3
	TEL：0920-84-2311
	FAX：0920-84-2310
	E-mail：n.sugawa@city-tsushima.jp

『佐護地区資源保全活動隊』長崎県対馬市

みんなで守ろう！絶滅危惧種。農家も田んぼもヤマネコも・・・

水田は、国の天然記念物であるツシマヤマネコ（絶滅危惧ⅠA類）の生息環境において非常に大切な役割を果たしていることから、農家が水稻栽培を続けることが自然保護活動につながっているという自覚を持つとともに、減農業栽培等の自然環境に配慮した栽培に取り組んでいる。

また、地元の小学生に年間を通して米作りについて学んでもらうことで、農業に関心を持ち、食の大切さ、自然環境において水田が果たす役割の大きさを知ってもらう活動をしている。



ヤマネコの1年

出産 1-3頭の仔を生みます。仔猫が小さいうちは水のうろなどで育てます。	子育て 田んぼにはエサとなる小動物がたくさんいます。稲株で姿を隠せる田んぼは仔猫に對りなごを身に付けさせる絶好のフィールドです。	親離れ 田んぼで生きる知恵や技を学んだ仔猫は、秋頃に母ヤマネコのもとから独り立ちします。	恋の季節 2月から3月が繁殖期です。互いに単行行動をしていた雄と雌が出会います。
--	--	--	--

田んぼの生き物

春 ツシマアカガエル・チョウセンヤマアカガエルが早春に産卵。ニホナマガエルが高卵。ウスバキトンボが大陸から渡ってきて産卵。

夏 サギ類などが田んぼでエサをとります。メダカの産卵。

秋 トンボ・クモ・カエル・カヤネズミなど田んぼには生き物がたくさん。コオロギなどが増えます。

冬 ガン・カモなどの鳥が飛来。マナヅルの北飛行。ワカが大陸から到来。

田んぼの様子

湿地となる平野が少ない対馬では、冬の水場はとても貴重なです。ヤマネコにとってもエサの少なくなる冬場、冬期湛水田にやってくる渡り鳥は重要な栄養源となっています。

種分けつ 出穂 登熟

<育苗><代かき><田植え> <水管理> <中干し><水管理><畦草刈り> <落水><収穫> <休田>

生き物配慮の取り組み

早期湛水 田植えの前に水を入れておくことで、プランクトンやミミズが増えます。また早く発芽した雑草を代かきで土の中に埋め込んでしまうので、雑草の発生を抑えることも期待できます。	深水管理 稲の成長とともに水深を浅くしていきます。水を深く保つことで、農薬を使わずに雑草の発生を抑えます。また、水際からメダカやドジョウも上がってきて産卵します。	畦草管理 田んぼへの日当たりをよくしたり、カメムシ被害を予防するために、畦草を刈ります。この時、一部を刈り残し、畦に生息する生き物の逃げ場を作ります。	有機資材を使った土づくり 微生物を培やし肥やしにするために、田んぼに有機物をいれます。この時、切りワラをすき込んだり、堆肥を薄くしたりといった地域由来の有機資材の活用にも努めています。
種子消毒 伝染病を予防するために、種もみを消毒したり、微生物の力を借りたりして、農薬に頼らずに消毒を行います。	中干し延期 オタマジャクシがカエルになり、ヤゴがトンボになる時期を待って、田んぼの水を抜き、土を乾かします。	ビオトープや魚道 田んぼに生き物が逃げ込める溝を作ったり、水路とビオトープ、田んぼを行き来できる魚道を付けたりしています。	冬期湛水 冬でも田んぼに水を蓄えることで、ワラの分解が進み、養分も増え、稲の養分となります。田んぼにやってくる冬鳥の貴重な餌場です。プランクトン・ミミズなどの微生物の働きで、土が柔らかくなり「トロトロ層」が形成されます。

『田んぼの楽校』の1年間の活動

4月 みんなで水田にならなって代かきをしました。	5月 田んぼ、一歩ずつと。	7月 田んぼの生き物を探して、みんな生き物がいっぱいかな？	9月 田んぼの生き物を探して、みんな生き物がいっぱいかな？
10月 田んぼの生き物を探して、みんな生き物がいっぱいかな？	11月 田んぼの生き物を探して、みんな生き物がいっぱいかな？	12月 田んぼの生き物を探して、みんな生き物がいっぱいかな？	12月 田んぼの生き物を探して、みんな生き物がいっぱいかな？

地区名 / キャッチフレーズ 山鹿市菊鹿町/「みんなで守ろう 取り組もう 池田 農地・水環境保全」			
活動組織の名称	いけだ ちいき かつどう そしき 池田地域活動組織		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町池永		
地域の状況 ・ 地区の位置 ・ 資源保全に係る過去と現在の違い ・ 地域資源と住民との関わりなど	①池田は池永三集落の内一つの集落で山麓地帯に位置し、昔から昼と夜の寒暖の差があり、土壌は花崗岩で、おいしいお米が採れる準農村地帯である。近年は農業従事者の高齢化が進み施設の維持管理が難しくなっている。②昔、池田のため池には魚やウナギ、ドジョウなどが生息し、田んぼ周辺の水路にはホタルがたくさんいて、初夏になると家の中に入ってきて夏の訪れを感じさせた。③近年は生態系が損なわれつつあり、昔のような原風景を見ることが少なくなった。 これらの願いから「みんなで豊かな自然を育むふるさとづくり」を目指し取り組んでいます。		
活動や取組の内容 ・ 地区の目指す方向 ・ 活動の概要	①農家と非農家が一体となり農業施設の維持管理と施設の長寿命化並びに営農活動の向上に努めている。また、地域内における環境保全では、子ども会と老人会でホタルの生態系に取り組み、生態系を壊さないことがいかに大切かを啓発、広報活動を通して地区に呼びかけている。②池田は五つの隣保班に分かれ、隣保班ごとに活動範囲を決め、その範囲にある農用地、施設については 農業関係者と非農業者が協力し合い活動を行っている。		
成果・課題 ・ 成果 ・ 今後の課題など	取組時間の経過とともに取り組みの効率も良くなってきている。実践活動のなかで、個人の特技や専門性を考慮し、みんなで手間暇かけてやることから、思いがこもり、連帯感と絆が生まれ、共生できることは意義深い。取り組み活動を通して農地水環境への理解も深まりつつある。今後は、まだ手の付けられていない施設の改修などの取り組みがこれからの課題である。		
キーワード	みんなで 守ろう 取り組もう		
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	①水質保全 / ②生き物調査 / ③景観形成（ゴミ拾い、花植など） / ④多様な主体の参加 / ⑤営農活動に関すること / ⑥特にユニークな活動 / ⑦その他（生態系保全の取り組み「施設、農用地に配慮した適正管理」）		
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	※①～⑤の番号を示して具体的内容を記入してください(該当する場合)。 実態改善の取り組みに視点を当て、子ども会、老人会を主に取り組んだ。実践活動においては、地区内の個人の特技や専門性を生かし、なるべく専門の業者に頼らず、手間暇をかけ取り組むことに努めた。		
発表者 (いずれかに○印)	農家のみ、農家と非農家、 非農家のみ		
応募者	ふりがな 応募者名	いけだ ちいき かつどう そしき 池田地域活動組織	発表者数： 1名 (内小・中学生 名)
	連絡先	住所	熊本県山鹿市菊鹿町池永
		TEL	0968-48-2766
		FAX	なし
	E-mail	inoue@taupe.plala.or.jp	

豊かな自然を育む里：池田

みんなで守ろう 取り組もう「池田 農地・水・環境保全」

(山鹿市菊鹿町池田地区)

✦ 地区のようす

- 【対象農用地】 25.7ha (田 12.5ha 畑 13.2ha)
- 【協定農用地】 42.5ha (田 14.5ha 畑 28.0ha)
- 【農業用施設】 開水路 6.5km パイプライン 3.4km ため池 3箇所 農道 3.8km
- 【構成員】 農業者 56名 非農業者 (自治会 29名、老人会 15名、子供会 12名)

*私たちの池田地区は、地域の特性を生かし米やニンニク、アスパラ、イチゴ、栗などを生産しています。そんな中一番の悩みは農業従事者の高齢化が進み農業用施設の維持管理が難しくなっていることです。*昔、ため池にはウナギやドジョウなどがいて魚取りをしました。初夏になるとホテルが家の中に入ってきて夏の訪れを感じさせました。しかし近年、生態系が損なわれつつあり、昔の様な原風景を見るのが少なくなりました。生態系を壊さず昔の様な原風景を取り戻すことができたらいいなと思います。*これらの願いから、私たちは豊かな自然を育むふるさとづくりを目指し、農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおります。

✦ 『活動組織』 みんなで取り組もう！子ども会・老人会が参加した共同活動組織

主な活動 ☆基礎活動☆



施設の点検・診断活動



農道法面草刈り



開水路法面の草刈り



ため池の草刈り

☆農地水向上活動☆



孟宗竹の除去作業



ため池の清掃除塵



遊休農地の管理



ため池の破損施設の改修

☆農村環境向上活動☆ 生態系保全



カワニナの生息状況の把握
(実践活動)



看板製作
(広報活動)



老人会・子ども会
(ホテル・カワニの合同学習会)



老人会・子ども会
(紙芝居による環境向上学習会)

ふりがな 地区名 / キャッチフレーズ よしきちく / やるき☆げんき☆よしき 吉木地区 / やる気☆げん気☆よしき			
活動組織の名称 ※ふりがなを忘れずに！	よしきちいきかんきょうほぜんくみあい 吉木地域環境保全組合		
所在地	大分県国東市国東町北江 吉木集落内		
地域の状況 ・ 地区の位置 ・ 資源保全に係る過去と現在の違い ・ 地域資源と住民との関わりなど	吉木地区は、大分県北東部の国東半島にある国東市の中程に位置し、水稻を中心とした営農が盛んな農業地域である。本地区では、近年農家戸数の減少と地域人口の高齢化及び団地造成による住民の混在化が進み、農業用施設の維持管理も含め、地域活動への参加が困難となり、その結果、遊休農地の発生や生活環境の悪化が顕在化してきた。 現在は農事組合法人を中心に営農を行い、グリーンツーリズムによる民泊を行っている農家もある。		
活動や取組の内容 ・ 地区の目指す方向 ・ 活動の概要	・ 農事組合法人を中心に遊休農地の解消や、ため池・用排水路等の草刈などの維持管理をこまめに行い、生活環境の向上を目指す。 ・ 集落内外の農家・非農家の子どもたちと田植え、稲刈りなどの農作業体験を通じて、交流を深める。		
成果・課題 ・ 成果 ・ 今後の課題など	・ 地域内外の子ども会による農作業体験や、愛育班（婦人会）との餅つきを通して、農家・非農家の交流が深まった。また、出来上がった餅を、地域内の独居老人に配ることで、地域内の交流を深めている。 ・ 現在の成果を今後根付かせるためにも、交付金による支援が必要である。		
キーワード（5つ以内）	・ 地域コミュニティの復活・区民総参加		
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	①水質保全 / ②生き物調査（希少生物の保護など） / ③景観形成（ゴミ拾い、花植など） / ④ビオトープ / ⑤畑・樹園地に関する事 / ⑥営農活動に関する事 / ⑥特にユニークな活動 / ⑦その他（農作業体験・収穫祭）		
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	①子どもたちと地域住民による農業体験と収穫祭を通じて、地域内の交流を深め、地域コミュニティを復活させる。		
発表者（いずれかに○印）	○農家のみ、農家と非農家、非農家のみ		
応募者	ふりがな 応募者名	いしまる きよみ 石丸清美	発表者数： 2 名 (内小・中学生 名)
	連絡先	住所	大分県国東市国東町北江 6 5 1 番地 1
		TEL	0978-72-1807
		FAX	
	E-mail		

吉木地域環境保全組合 (国東市)

対象資源

○農地	○農業用施設
・水田 29.6ha	・用排水路 15.7km
	・農道 3.6km
	・ため池 3ヶ所

組織の構成

- 農事組合法人よしき 吉木営農生産組合
- 吉木自治会 ○吉木老人クラブ ○吉木子供会PTA ○吉木愛育班
- 吉木消防班 ○国東町土地改良区

活動報告 (学校教育との連携)

「田植え」「稲刈り」などの、農業体験の場を提供し、子供会との連携を図っている。

また、H21年度の国東市ケーブルテレビにて、子供と保全組合による田植や稲刈りの農業体験を通して地元との交流が放送され、農地・水・環境保全活動に対する市民へのアピールを行っている。(市報にも掲載される)

活動写真



保全組合による餅つき大会



学校教育との連携



ふりがな 地区名 / キャッチフレーズ ほんじょうち く 本城地区 / ☆ 笑顔の輪で作る共同活動こそ癒しのあるふるさとづくり ☆			
活動組織の名称 ※ふりがなを忘れずに!	ほんじょうち くしげんかんきょうほぜんかい 本城地区資源環境保全会		
所在地	鹿児島県 垂水市 本城		
地域の状況 ・ 地区の位置 ・ 資源保全に係る過去と現在の違い ・ 地域資源と住民との関わりなど	<p>・ 本城地区は、垂水市の中央を流れる本城川流域に広がる水田地帯で、東は自然休養林の高隈山麓(猿ヶ城溪谷)、西は錦江湾に面した緩やかな傾斜の水田地帯である。古くは藩政時代より大規模な農地の開発が行われ、昭和当初、垂水市の水田は400町歩、そのうち200町歩がこの活動区域にあり、本城川の両岸にまとまっている。当時は苦難な工事であったらうと想像される素掘りの隧道も現在に至り、地区用水の導水路として健在である。</p> <p>・ 以前は道路水路等の保全においては、集落総出による活動が行われていた。近年は混住化が進み、施設の他目的使用が増えてきた。そこで、水土里サークル活動の年間行事として地域ぐるみでの施設保管理作業(反土)の拡充と定着が進み、共同活動の気運が高まってきた。</p>		
活動や取組の内容 ・ 地区の目指す方向 ・ 活動の概要	<p>・ 過疎化が進む現在において、資源の維持継承について農業者だけでは困難であることが明確であるので、地域ぐるみでの保全活動は不可欠なものである。そこで地域にある資源が、その周辺の共有財産として認識され管理する体制を作る。</p> <p>・ 当地区は中山間直接払い事業と受益が重複した区域であり、傾斜地は中山間活動により電気柵や農道舗装を行っており、一方水土里サークル活動においては地域ごとに振興会・PTAといった構成員で草刈や土砂上げ等の共同活動に取り組み、癒しのある農村環境を作るため花いっぱい運動もおこなっている。</p>		
成果・課題 ・ 成果 ・ 今後の課題など	<p>・ 人は話し合えば必ずどこか合意できる。お願いすれば聞いて下さる事も沢山あった。</p> <p>・ この対策の導入により、今までやったことのなかった溜め池を数日間かけ水を抜き、流木の撤去や堤体の点検を実施した。よって活動項目の実践により保護された資源がかなりあった。</p> <p>・ 資源は農家だけのものではないことを地域ぐるみで理解し、常に共同活動ができるようリーダーの育成が大事である。</p>		
キーワード (5つ以内)	【話し合いは実践活動】 【共同活動はやすらぎを田園へ】		
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	<p>①水質保全 / ②生き物調査(希少生物の保護など) /</p> <p>③景観形成(ゴミ拾い、花植など) / ④ビオトープ /</p> <p>⑤畑・樹園地に関する事 / ⑥営農活動に関する事 /</p> <p>⑥特にユニークな活動 /</p> <p>⑦その他(ワークショップ、地域の祭り)</p>		
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	<p>※①～⑤の番号を示して具体的な内容を記入してください(該当する場合)。</p> <p>②共同活動のもつ意義について、地域住民へ啓発するため地区最大の行事である「女男河原祭り」(おんだんこらまつり)において特設会場で活動写真の展示を行った。また、水土里サークル活動へのアンケート調査やひまわりの種の配布も行った。</p> <p>⑤地域住民参加型のワークショップを開催し、日頃気づかない地域の良いところ不便なところ等の調査発掘を行い、夢マップ作成により今後の活動目標が見えてきた。</p>		
発表者 (いずれかに○印)	農家のみ、 <u>農家と非農家</u> 、非農家のみ		
応募者	ふりがな 応募者名	ほりのうちてるお 堀之内輝夫	発表者数: 3名 (内小・中学生 名)
	連絡先	住所: 鹿児島県垂水市本城1441番地	
		TEL: 0994-32-2054	
		FAX:	
	E-mail:		

本城地区資源環境保全会 (鹿児島県・垂水市)



1. 基礎活動

猿ヶ城溪谷

千本銀杏

・祖先が苦勞して掘った隧道の土砂出しや、水路・農道の管理を反土作業で行っている。

隧道の土砂出し



水路の草刈



水路の土砂上げ



2. 景観形成 (学校教育との連携)

・地元の水之上小学校と連携し、全校生徒と田植えから稲刈り、脱穀、餅つきまでを体験した。

菜の花の植栽



田植え



稲刈り



3. 地域住民との連携

・地域の祭りである女男河原祭りにおいて、水土里サークル活動の広報を行った。



女男河原祭り
(おんだんこらまつり)



ワークショップ
(探検中)



ワークショップ
(夢マップ作成中)

ふりがな 地区名 / キャッチフレーズ の だ きょうがく・きょうゆう・きょうどうでたのしいむらづくり エコAAA野田 / 共学・共遊・協働で楽しい村づくり		
活動組織の名称 ※ふりがなを忘れずに!	エコAAA野田	
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南14608番地	
地域の状況 ・ 地区の位置 ・ 資源保全に係る過去と現在の違い ・ 地域資源と住民との関わり など	当地区は、川南町の中心部から西へ4 kmに位置し、数百年前から地域の中心部を流れる篠原川を水源として田畑を耕し、住民が共同して農業を行ってきました。以前は、地区民全てが田を持ち、農家・非農家の区別なく地区の全ての者が共同して地域内資源保全に努めていましたが、近年、世代交代・農家の減少等により地域資源保全活動意識が低下してきました。そのため、農道や用排水路の適正な維持管理が困難となり、結果として40年前に土地改良工事により整備が行われた水路等が、老朽化による水漏れや崩落等により、水田保全もできないくらいになってしまっていた。	
活動や取組の内容 ・ 地区の目指す方向 ・ 活動の概要	・ 共同活動による資源の保全を通して、いつまでも自然環境を維持し、生まれ育ったことに誇りが持てる地域づくりを行う。 ・ それぞれの構成員が共に活動し、施設保全や景観形成及び遊休農地の解消ができた。また、世代間を超えた交流の場を新たに作る事ができたほか、2年に1度の県外他団体研修を通じて改めて景観保全の在り方、地域づくりについて学ぶことができた。	
成果・課題 ・ 成果 ・ 今後の課題など	・ 世代間を超えた地域住民の連携がより一層深まり、景観形成にあつてはいろいろなアイデアが出るようになった。また、農業用施設の保全、遊休農地の解消ができたほか水質保全活動にもみんなの関心が高められた。 ・ 課題としては、共同活動を行うに当たって日程調整がなかなか難しかったことである。	
キーワード（5つ以内）	・ 世代間交流 ・ 農地保全 ・ 共に生きる ・ 自然環境保全	
主に発表したいテーマ いずれかに○印、複数可	①水質保全 / ②生き物調査（希少生物の保護など） / ③景観形成（ゴミ拾い、花植など） / ④ビオトープ / ⑤畑・樹園地に関する事 ○⑥営農活動に関する事 / ⑥特にユニークな活動 / ⑦その他（ ）	
アピールポイント ①活動や取組の発想・視点の先進性やユニークさ ②地域の歴史や住民生活との結びつき ③活動組織の構成 ④工夫した計画手法や技術 ⑤その他	①研修を通していろいろな発案が出るようになり、地域全体に活気が出てきた。また、ほとんどの活動に構成員全員が参加しており、環境保全の意識が浸透した。四季折々の花で地区内道路を飾ろうと言う意見が出ているが、実現までにはもう少し時間がかかりそうだ。 ②毎年4月に開催される大師祭りに地区民ほとんどが参加するようになり、にぎわいを見せるようになった。このことを通じて、住民間交流が深まり生活をする上でも協力するようになった。 ③活動組織の構成はそのほとんどが地区内住民であるので、区別する必要がなかった。 ④地区内に土木作業に詳しい者や重機の操作ができる者がいるため、施設保全や農道の補修、遊休農地の解消計画作成に大変役立った。また、景観形成については、他団体の研修から学んだ手法を取り入れた。 ⑤この事業を活用して、水質についての勉強会を地区民全員を対象に開催し、住民の意識高揚を図った。また、その意識を持続させるため年に1度川でウナギのつかみどり大会を開催し、親子のふれあいも合わせて実現できた。	
発表者（いずれかに○印）	農家のみ、 <u>農家と非農家</u> 、非農家のみ	
応募者	ふりがな 応募者名	押川 義光（おしかわ よしみつ） 発表者数： 5 名 （内小・中学生 名）
	連絡先	住所： 宮崎県児湯郡川南町大字川南14384番地5
		TEL： 0983-27-4390
		FAX： 同 上
	E-mail：	



畑が立派になったねー



草刈りががんばっど!



安全第一で作業してます



土砂上げは大変やね

宮崎県川南町

エコAAA野田

AGRICULTURE 共同活動による農地保全と自然環境保全

ASSOCIATION 世代間交流を行い地域住民の連携を深める

AREA 共に生きる地域づくり



しっかり聞いて勉強してます



ハンドルが重くなったね



魚がたくさんいるねー



みんなで研修行きました!

ここからはフォーラム当日の様子です。



大勢の人に参加いただき、受け付けは混雑状態でした。



各県活動組織を紹介するパネルなども展示されていました。



開会を待っている様子です。



いよいよフォーラムが始まりました。



一日の司会進行を務めていただいたフリーアナウンサーの前田さん。



開会 宮崎市農村整備課 山之上課長



主催者あいさつ 宮崎県農地・水・環境保全推進協議会 黒岩会長



来賓あいさつ 九州農政局 丸山次長



来賓あいさつ 宮崎県農政水産部 押川次長



最初の基調講演は、夕日の里づくり推進会議代表 後藤福光さん。「逆転のむらづくり」について、講演いただきました。



各県活動組織事例発表。トップバッターは福岡県「名残みどりの会」



続いては、佐賀県の「河津資源保全隊」のみなさん。



お次は長崎県。「佐護地区資源保全活動隊」の発表でした。



熊本県の「池田地域活動組織」は歌を交えた発表でした。



大分県の「吉木地域環境保全組合」は大勢での発表。



鹿児島県「本庄地区資源環境保全会」の発表です。



最後は宮崎県「エコAAA野田」のみなさんによる発表でした。



最後は有識者によるパネルディスカッションです。



コーディネーターの井上さん。巧みに進行をしていただきました。



パネラーの方は、さまざまなジャンルで選ばせていただきました。



パネラーの方は、行政、マスコミ関係、大学関係、活動組織関係と、それぞれ違う分野からの選出でした。さまざまな立場からの意見を聴かせていただき、とても考えさせられる内容でした。



ディスカッションの最後は、時間をオーバーするほど白熱しました。



閉会 鹿児島県水土里サークル活動支援協議会 有馬さん



皆様のご協力のおかげでフォーラムは無事終了しました。

今回の、九州「農地・水・環境保全」フォーラムin宮崎は、平日にも関わらず、県内外から多数の皆様のご参加を頂き、盛会のうちに終了しました。遠方から足を運んで頂いた皆様、どうもお疲れ様でした。今回のフォーラムが、それぞれの活動組織にいい刺激を与え、よりよい地域づくりに繋がっていくのではないのでしょうか。最後に、今回のフォーラムにご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。